

A Study on the Disaster Mitigation Information in Musashino University : Part 1 Analysis of Information Offered by the University

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊村, 則子 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1779

武蔵野大学における防災情報に関する研究

その1 大学から提供されている情報の分析

A Study on the Disaster Mitigation Information in Musashino University

Part 1 Analysis of Information Offered by the University

伊 村 則 子

Noriko Imura

1 はじめに

地震被害を最小限に抑えるには、市民の防災力向上が重要になる。『首都直下地震対策大綱』では大学を含む事業所は、帰宅困難者対策など自前の対策・準備が求められている。また大学生は生活圏が拡大し、一人暮らしなど生活環境が変化する時期であり、様々な状況に遭遇する可能性が高い。これまで、本研究は大学生に注目し防災知識や対応力がどの程度か、特に自宅から離れた大学で被災した場合に注目し大学生を対象にアンケート調査^{1, 2)}を行ってきた。本報では、大学から学生に配布されている防災情報を収集し、どのような防災情報が学生に発信されているのか、武蔵野大学の現状を明らかにするとともに他大学の情報と比較し、課題を明らかにした。

2 調査概要

武蔵野大学の場合、大学から学生に対して提供する防災情報は、毎年4月に全学生に配布する『学生手帳』³⁾と『学生ハンドブック』⁴⁾によることから、他大学の学生手帳と学生ハンドブックを収集した。調査は2006年5～8月に行い、関東圏14校(玉川大学⁵⁾、法政大学⁶⁾、東京女子大学⁷⁾、津田塾大学⁸⁾、中央大学⁹⁾、女子美術大学¹⁰⁾、大東文化大学¹¹⁾、東京情報大学¹²⁾、専修大学¹³⁾、明海大学¹⁴⁾、工学院大学¹⁵⁾、千葉工業大学、東京薬科大学、成蹊大学)の資料を得た。また、比較検討のために、阪神・淡路大震災の被災地域にある大学についても資料を収集し、阪神地区6校(神戸薬科大学¹⁶⁾、神戸大学¹⁷⁾、甲南女子大学、神戸女学院大学¹⁸⁾、甲南大学、関西学院大学¹⁹⁾)の情報を、現地ヒヤリング調査、または電話による聞き取り調査により入手した。

さらに、参考として東海地震想定地域にある東海地区2校の静岡大学と名古屋大学の資料を対象とした。両大学は学生向け防災情報をそれぞれホームページ^{20, 21)}により一般公開している。

3 武蔵野大学が提供している防災情報

武蔵野大学が学生向けに提供している『学生手帳』³⁾と『学生ハンドブック』⁴⁾の防災情報を図1、図2に示す。この2冊に書かれている内容は一般的な内容が多い。また、両者にあまり違いはなく、共通に記載されている項目には、「避難経路」「災害伝言ダイヤル」などがある。

災害発生時及び警戒宣言が 発表された場合の留意事項

1. 学内で火災が発生した場合

学内で火災が発生した場合、非常放送により知らせるので、避難標識に従い、直ちに屋外へ避難し消火活動の妨げにならないように、松芝園グラウンドに集合すること。
避難の際、特に注意すること。

 - イ. 窓の近くにいる学生は、必ず窓を閉めて避難すること。
 - ロ. 静粛に足早に避難すること。(走らないこと)
 - ハ. 煙が満ちている箇所では、壁や廊下に添ってからだを低くして、口や鼻をハンカチ、タオルなどで塞ぎながら避難すること。

ニ. 一度避難したら、絶対に友人を捜しにいたり物を取りに戻らないこと。
2. 地震が発生した場合

在宅中または通学途中で地震により交通機関が混乱した場合は、無理に通学しないで自宅待機するか、自宅に帰ること。
学内にいて地震があった場合は、次のことに留意すること。

 - イ. 火気使用中はガスの元栓を締める等、直ちに火を消し、窓、扉を開け、落下物等から身を守るため机の下などから身を寄せる。
 - ロ. あわてて屋外に飛び出さず、地震がおさまるのを待って、落下物に注意し、速やかに屋外に出る。
 - ハ. 地震がおさまったら友人の様子を確かめて、異常があったら直ちに、災害対策本部（以下「本部」という。）に連絡する。

ニ. 屋外にいるときは、屋内に入らないこと。また、一度避難して屋外に出た者も、屋内には入らないこと。建物から離れて安全な場所で待機し、本部の指示に従うこと。
3. 警戒宣言が発表された場合

大地震が予測される場合は、政府で決定し、警戒宣言が発表されることになっているが、次の点に留意すること。

 - イ. 通学前に警戒宣言判定者招集の報道があった場合は、判定会の結論が出るまでは自宅待機すること。
 - ロ. 通学途中で報道があったり、震災に直面した場合は、交通機関の混乱しないうちにできるだけ自宅に帰ること。

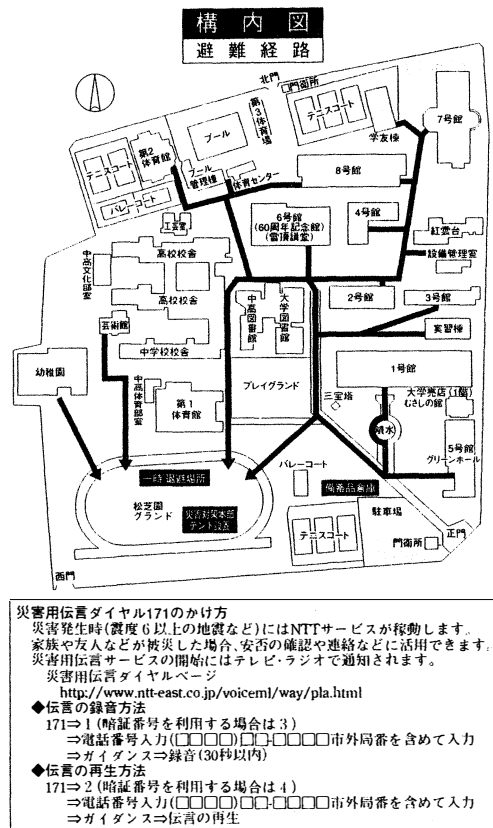


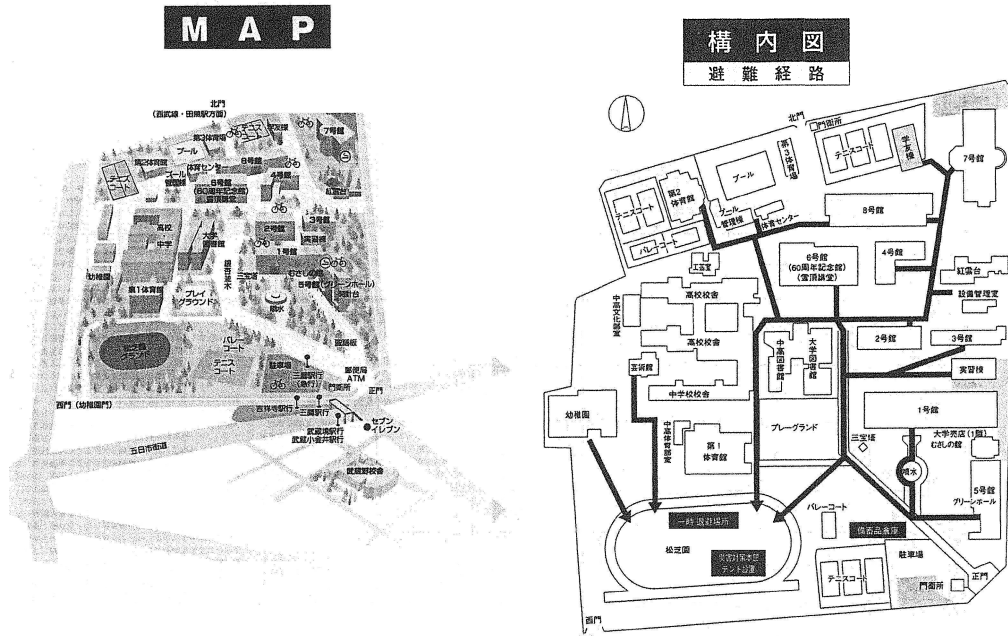
図1 武蔵野大学『学生手帳』³⁾

4 大学が提供している防災情報

入手した資料を対象に、大学が提供している防災情報にはどのような内容があるのか、表1にまとめた。表1中の「①学生ハンドブック」「②学生手帳」は、大学側が学生に配布しかつ防災情報が記載されている場合は「○」を、配布しているが防災情報の記載がない場合は「●」を、配布していない場合は「×」を、不明の場合は空欄とした。次に「提供している防災情報の内容」については、掲載がある場合は「○」を、掲載がない場合は「×」を、不明を空欄とした。

その結果、各大学の提供している状況から、表1のように①学内生向けの具体的な情報（5校）、②一般的な情報（11校）、③情報がない（6校）に分類することができる。武蔵野大学が提供している内容をみると、「警戒宣言発令時の行動、在学時の大地震発生時の行動、一時避難場所、災害用伝言ダイヤルの使い方」などであるが、内容は一般的で在学時に被災した場合に役立つ内容とはいえ、②の一般的な防災情報のグループに位置づけられることがわかる。

防災情報を提供する大学で扱が多い内容は「警戒宣言、学内での地震発生時の行動、地震時の避難の心得」であるが、内容は大学によって大きく異なり、詳細に記載している大学と一般的



4. 火災・地震発生時の対応について

- (1) 火災が発生した場合は非常放送で連絡しますので、冷静にその指示に従い、あわてず速やかに避難場所に移動してください(P.53避難経路 参照)。
- (2) 地震が発生した時は机の下に伏せるなど落下物から身を守り、揺れが落ち着いた時点で速やかに避難場所に移動してください(P.53避難経路 参照)。
- (3) 授業で火気を使用している場合は、すぐに消してください。
- (4) 非難する際は必ず階段を利用し、エレベーターは絶対に使用しないでください。

災害用伝言ダイヤル171のかけ方

災害発生時(震度6弱以上の地震など)にはNTTサービスが稼働します。家族や友人などが被災した場合、安否の確認や連絡などに活用できます。災害用伝言サービスの開始はテレビ・ラジオで通知されます。

災害用伝言ダイヤルページ
<http://www.ntt-east.co.jp/voiceml/way/pla.html>

<p>・伝言の録音方法</p> <p>171→1 (暗証番号を利用する場合は3)</p> <p>→電話番号入力 (0000)00-0000 市外局番を含めて入力</p> <p>→ガイダンス</p> <p>→録音(30秒以内)</p>	<p>・伝言の再生方法</p> <p>171→2 (暗証番号を利用する場合は4)</p> <p>→電話番号入力 (0000)00-0000 市外局番を含めて入力</p> <p>→ガイダンス</p> <p>→伝言の再生</p>
--	--

図2 武蔵野大学『学生ハンドブック』⁴⁾

表1 大学から学生への防災情報の提供状況と武蔵野大学の改善課題

防災情報提供状況	提供している防災情報の内容												その他							
	配布用子		警戒宣言		発生時				事前			教職員								
	①学生ハンドブック	②学生手帳	警戒宣言発令時	警戒宣言発令時	社会状況	初期行動	大規模発生時の行動(校内)	避難場所	大規模発生時の行動(学外)	地震時の避難の心算	火災発生時のダイアル	重要用伝言ダイヤル		地震に対する日課の備え	備蓄	地震時の教員の心得	地震時の避難の知識	重要地域が主要報が出たとき	勤務外の時	
②	武蔵野大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
	玉川大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
①	津田塾大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
	精国大学 名古屋大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
②	関西学院大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
	法政大学 東京女子大学 中央大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
③	女子美術大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
	大東文化大学 東京情報大学 専修大学 工学院大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
③	神戸薬科大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ枚数使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風⑦自然の中での事故 ⑧交通事故⑨身近な事故と犯罪 ⑩海外旅行の安全管理 ⑪建物設備・避難器具・EVI非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等 ⑫気象情報等の発生時の休講措置 ⑬消火設備の使用法 ⑭休校制度
	神戸大学 神戸女子学院大学 明海大学 千葉工業大学 東京薬科大学 成蹊大学 甲南女子大学 甲南大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
武蔵野大学における改善点												2	1	1	1	2	○:配布、防災情報記載有 ●:配布、防災情報記載無 空欄:不明			

な内容にとどまる大学に分かれた。

①に該当する大学では、学外で大地震が発生した場合の行動や救護の心得、学内の公衆電話の位置などを掲載していた。

5 提供される防災情報の特徴

提供内容を詳細にみると、「警戒宣言」については大学によって項目に差はなく、「在宅中」「通学中・帰宅中」「在学中」「授業措置」に分けられ、9校中、6校が「在学中」5校が「在宅中」「授業措置」と多くの大学で記載がある。なお、警戒宣言地域外にある阪神地域の大学では記載がないことがわかった。

次に、地震発生後の初期行動については、大地震発生時の学内での行動と重なる内容が多く、表1に示すようにあえて記載している大学は少なかった。初期行動として書かれている内容はその大学もほぼ同じで、「身の安全の確保」「火の始末」「出口の確保」であった。初期行動では、二次災害を防ぐ基本的・最低限の内容があげられている。図3示すように静岡大学の事例²⁰⁾がわかりやすく、地震発生後から時間別にとる行動が、フローチャートで簡潔にまとめられている。

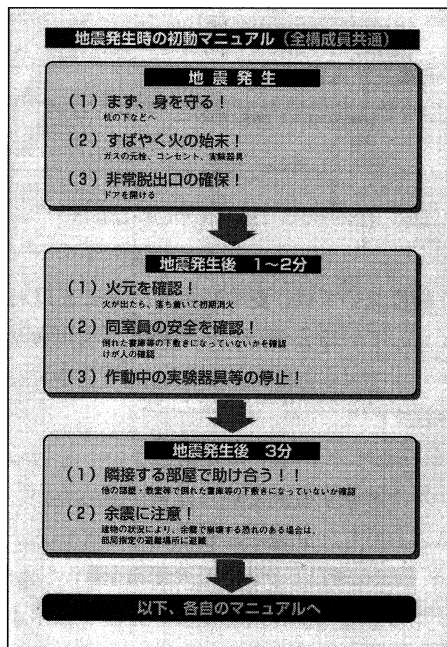


図3 静岡大学『静岡大学の防災対策』²⁰⁾

大地震発生時（学内）の行動については、10校中9校が「落下物から身を守る」、8校が「出口の確保」、6校が「火の元を消す」を扱っている。同様にわかりやすい例として図4に示すように静岡大学²⁰⁾がわかりやすく、場面別に具体的な内容で書かれている。

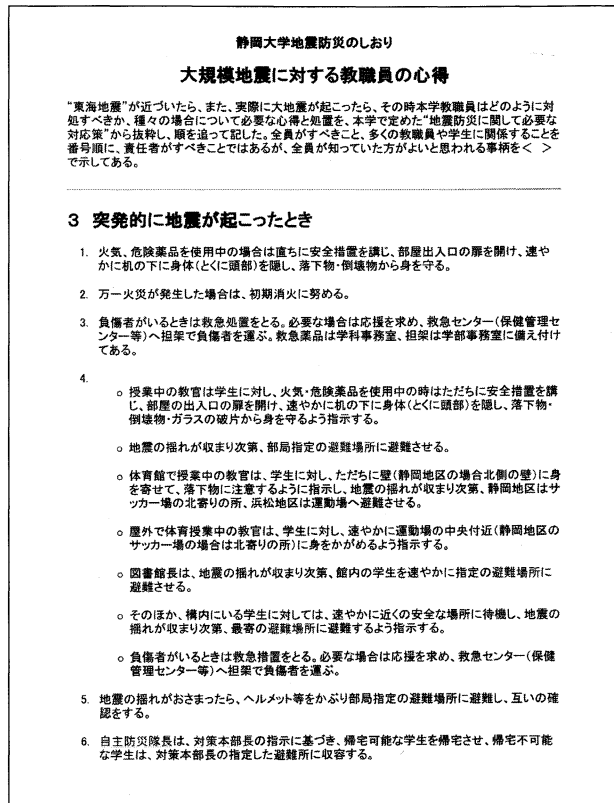


図4 静岡大学『静岡大学の防災対策』²⁰⁾

大地震発生時(学外)の行動については、表1に示すように玉川大学、津田塾大学、静岡大学、神戸大学の全般的に内容が充実している大学が扱っている。玉川大学では図5に示すように「マンション・団地・家屋・アパートでは」「乗り物の中では」「街中では」と場面別に書かれ⁵⁾、津田塾大学では簡潔にまとめられている。

避難時の心得は、「落下物に注意する」「EVは使用しない」を扱っている大学が多かった。工学院大学では「1階から校舎外に避難する」という記載があったが、これは校舎が新宿の超高層ビル群にあり、地下からの出口もあり、立地が大きく関わっている。

火災発生時については、「早く知らせる」「早く消火する」「早く逃げる」「煙が充満している所では体を低くし、ハンカチ等で口を覆う」の内容が多い。表1に示すように特に首都圏の大学で多く書かれ、東海地震想定地域では地震の内容とリンクして書かれていた。

地震に対する日常の備えについては、「家族内での話し合い」「非常口の位置や避難経路の確認」の内容が多い。最も詳細な記述は関西学院大学であり、家具の転倒防止策をとりあげている。

地震時の救護の心得の記述は、玉川大学と静岡大学の2校にとどまり、提供内容の充実度合いがこれによりわかる。

地 震

○昇降口・ロッカー室では、軌道や取柄ロッカーなどの転倒が考えられるので危険です。すばやくその場から離れ、身の安全をはかります。

○教室の外では、落下物の危険があるので、建物周辺からすばやく離れ、グラウンドや広い場所に出て安全確保をします。

(2) 教室の出口を確保
教室の出口に一番近い人は扉を開け、避難路を確保します。

(3) 火の元を消す
火種・燃料が、ガスやアルコールランプなどを使用している場合、すばやく消火します。また、ガスの、元栓も必ず止めます。

(4) 先生の指示に従う
教職員の手指示があるまで、勝手に教室から出たりしるにします。その場で待機し、その間に周辺の状況を確認します (1)が人や、火災発生など)。

(5) 火が出たらすぐに消火する
初期消火にすばやくあたります。消火器は各階に設置してあります。ただし、実験室など化学薬品のある教室では、爆発や薬品の飛散などで、状況が急変することがあるので十分注意が必要です。

■ マンション・団地・家庭・アパートでは

(1) 落下物から身を守る
食器・食器棚・たんすなど家具類の転倒、窓・ガラスなどの破損による危険があるところから、すばやく離れます。照り器具や釣などの落下物から身を守るため、テーブルの下にもぐるか座布団やクッションで面を守ります。

(2) 火の元を消す
ガステーブルやガスストーブ・石油ストーブは、転倒する場合がありますので、すばやく火を消します。ガス器具は元栓を締め、アイロンなどの電熱器具類は、電源スイッチを切りコンセントを抜きます。風呂釜のガスも忘れず元栓を止めます。

(3) 部屋の出口を確保する
玄関・浴室・窓が破損し、外に脱出できなくなる恐れがあるので、扉を開けて出口を必ず確保します。

(4) あわてて外に飛び出さない
日本の家屋は、耐震性に配慮されているので、家の中の方が安全だといわれています。屋外の建物周辺では、瓦やガラス、看板などが落下してきたり、玄関前でブロック壁が壊れ、トジきになるなどの危険性が高くなります。木造住宅では、1階より2階の方が安全だといわれています。マンション・団地などの鉄筋コンクリートは、よほどの大地震でない限りまず安全です。


(5) 出火したらすばやく消火する
火災が起きたら「火事だ!」と、必ず大声で家族や隣近所に知らせます。地震発生後は、消防車はすばやくは来れないと考えて、自力で初期消火します。天井まで火があがったら隣近所に知らせ、急いで避難します。

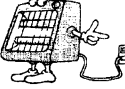
■ 乗り物の中では


(1) 電車
鉄道は地震時には停止信号を表示し、列車は止まるようになっていきます。車内では、次の乗降で安全を確保します。
○急停車するときは、かなりのショックがあります。立っているときはつりばりや支柱などにつりつかまわり身体をささえます。

緊急避難時の3つの注意

- ①安全確保
- ②状況の把握 (非常放送・係員の指示)
- ③避難路の選択







○勝手に判断で行動せず、乗務員の指示に従って行動しましょう。

○車両に、小さな子どもや老人、身体の不自由な人がいるときは、お互いに協力しあって優先して避難させる必要があります。

(2) 地下鉄

○走行中の地下鉄は地震を感じた場合、状況によって次の駅まで運行することになっているので、車内放送を注意して聞きます。

○停車になっても非常灯が点灯します。乗務員が運転指令所と連絡をとり状況を判断しますので、指示があるまで決して勝手に行動はしないで待ちます。

(3) 車

地震により道路が破損しつづきとなり、急ハンドルを取られ、逆転が繰り返されます。

○地震を感じたら、ハンドルをしっかり握り、ゆっくりとスピードを落とし車を道路の左側に寄せて止めます。

○寄せたらエンジンを止め、鍵はそのままにします。サイドブレーキはしっかりかけて避難します。

○車外に出るときは、まわりを十分注意し、前をカバンや衣類で保護しながら、徒歩で安全な場所へ移動します。

■ 駅中では

(1) 駅・ホーム
地上の駅のホームは、大部分が鉄骨でできています。しかも軽い屋根でできているので、地震で瞬間につぶれる心配はまずありません。
ホームで地震を感じたら、頭上の時刻表や照明器具の落下物から身を守り、乗線の切断に注意して、駅員の指示を待って行動してください。
周辺の子ども・老人・身体の不自由な人は優先し、避難誘導に協力しましょう。

(2) 商店・ビル街
ま字頭上からの落下物に注意します。ガラスの破片・コンクリート・看板・レンガ・タイルなどのさまざまな物が落下してくる危険があります。コートや上着、カバンなどで頭を守りながら、ビルの入口に逃げ込みます。歩道橋の上では、すばやく下へ降り、壁から離れるようにします。

(3) 地下街
地震のときの地下街の揺れは、地上の建物の半分以下といわれています。火災や浸水・ガス漏れなどがなければ、地上より安全といってもよい場所です。恐ろしいのは、警察が電燈の消えた暗闇で起こすパニック状態と火災です。
地震によって一時的に停電しても、非常用バッテリーなどの影響で、誘導灯や非常灯がつくので、不安や恐怖に巻き込まれないようにします。また、構造的に安全にできているので、決してあわてないようにはります。地震の際には人々が非常口・出口などに集中し、人的2次災害が起きやすいため、落ちついて行動します。どこかの地下街でも、出入口は60m間隔で設けられています。近い出口の方向を確認し、避難は駅員や店主などの指示に従うようにします。

(4) デパート・映画館
天井からの看板、装飾品などの落下に注意します。服をコートやカバンで守るようになります。停車になっても非常灯がつくので、映画館では、まず、椅子と椅子の間に

地下街の火災は要避
地震には比較的強い地下街も、一旦火災となると、大変な危険地域となります。地下街の火災は特に、「煙」と有毒ガスが充満します。パニックに巻き込まれないよう、冷静に出口を抜けつづき外へ避難するようにします。




図5 玉川大学『防災の手引き いざというときのために』⁵⁾

6 武蔵野大学における今後の課題

大学が提供している情報の比較より、武蔵野大学の現状をふまえ、先進的な事例を採り入れ、武蔵野大学の改善案を考察した。結果を表2に示す。改善案は緊急度合別に、早急に着手すべき課題を「1」、項目として現状にあるが内容を改善した方がよいものに「2」、第2段階の着手でもよいと考えた課題を「3」、現状維持を「-」とした。(なお表1の最下段にも併記した。)

表2 武蔵野大学の現状と今後着手すべき課題

○掲載 ×未掲載		提供している防災情報の内容													
		警戒宣言		発生後						事前				教職員	
		警戒宣言 発令時	警戒宣言 発令時の 社会状況	初期行動	大地震発 生時の行 動(学内)	避難場所	大地震発 生時の行 動(学外)	地震時の 避難の心 得	火災発 生時	災害伝言 ダイヤル	地震に対 する日常 の備え	備蓄	地震時の 救護の心 得	地震の 基礎知識	東海地震 注意報が 出たとき
武蔵野大学	○	×	×	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×
玉川大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
津田塾大学	○	×	×	○	×	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×
静岡大学	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○
名古屋大学	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	×	○
神戸大学	×	×	×	○	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×
関西学院大学	×	×	○	○	○	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×
武蔵野大学における改善点	2	1	1	2	-	1	1	-	-	1	3	3	3	3	3

1:早急に改善すべき課題 2:現状の防災情報で触れられているが、改善したほうがよい課題 3:第2段階に着手しても間に合う課題 -:現状維持

まず、表2最上段に示す武蔵野大学の現状は○の内容を掲載しており、「警戒宣言発令時」「避難場所」「災害伝言ダイヤル」などを扱っているが内容は一般的である。

併記した玉川大学、津田塾大学、静岡大学、名古屋大学、神戸大学、関西学院大学は、上述した考察から学内者に対する情報提供が充実している事例であり、中でも静岡大学、名古屋大学、玉川大学は詳しい。

静岡大学の場合は、教職員に対するものが大半を占める。学生に対しては「地震発生時の初動マニュアル」「警戒宣言が発令された場合」「突発的に大地震が発生した場合」について書かれており、詳細は最終的には教職員のページに進むようになっている。教職員への体制がしっかりしており、「勤務外時」「救護の心得」など、こと細かく書かれている。

名古屋大学の場合、「防災訓練」や「地震に対する日常の備え」として家具や器具類の安全対策の方法が絵つきで書かれている。

阪神・淡路大震災被災地域にある大学では、防災情報としては関西学院大学の冊子が充実しており、阪神・淡路大震災の教訓をふまえて冊子を作成していることがわかる。例えば図6に示すように、避難場所案内地図(校内地図)¹⁹⁾には電話ボックスの位置を記載している。これは他の大学にはない工夫であり、発災直後は一般加入電話よりも公衆電話が役に立った経験に基づいたものであるといえ、また現状としても発災直後は、携帯電話はほとんどつながらないと言われてることなどから、採り入れたい先進事例といえる。

首都圏の大学に注目すると、玉川大学の防災教育が進んでいる。附属校園として幼稚園・小学校・中学校・高等学校があり、園児から大学生まで一貫して防災教育が行われ、防災資料もわかりやすいものが作られている。首都圏で次に防災教育が進んでいるのは津田塾大学といえる。玉川大学のように附属校園がないが、しっかりした防災情報が提供されている。

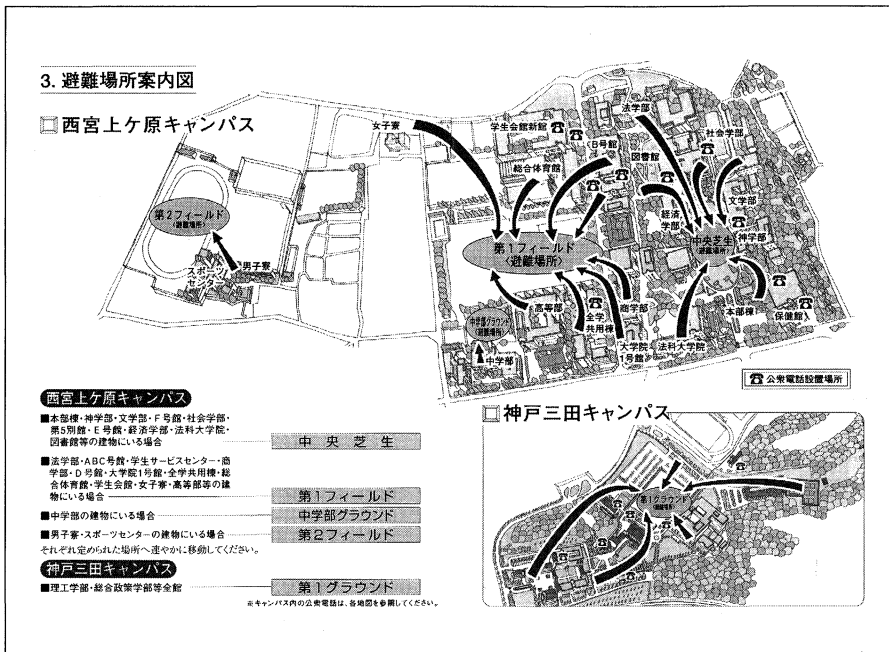


図6 関西学院大学『“いざ”というときのために』¹⁹⁾

警戒宣言が発令された時の行動として①自宅②通学時③学内④授業再開について書かれている大学が多くみられたが、武蔵野大学の防災情報もこれに類する。

首都圏の大学は「大地震発生時の行動(学外)」まで触れているところは少なく、「大地震発生時の行動(学内)」「火災発生時の行動」の描写にとどまる大学が多い。静岡大学、名古屋大学の東海地震想定地域では、地震発生時の行動の中に火災の内容が盛り込まれている。

以上より、武蔵野大学の今後の課題として「大地震発生時の行動(学内)」では、自分の問題として考えられるように武蔵野大学生向けの具体的な情報とし、学生に身近に感じてもらう必要がある。地震に対する日常の備えでは、武蔵野大学は全く提供していないが、事前準備の大切さは阪神・淡路大震災の事例から明らかであり、また他大学も多く提供しており、重要度が高い。東海地震想定地域の静岡大学や名古屋大学、東京都で防災教育が進んでいる玉川大学を事例に、具体的かつわかりやすく情報を盛り込む工夫が必要と考える。

7 おわりに

武蔵野大学の防災情報と他大学の防災情報を比較し、武蔵野大学には学生向けの防災情報が学生手帳や学生ハンドブックには記載されていたが、内容は一般的な項目・内容であり、防災情報が不足している現状が明らかとなった。他大学の先進的な提供内容から見直しを行ない、武蔵野大学の学生に特化した防災情報の提供が必要であることを示した。次報では、学生を対象とした防災に関するアンケート調査結果と防災啓発マニュアルの提案について述べる予定である。

本論文をまとめるにあたり、終始ご指導戴いた日本女子大学住居学科石川孝重教授に深謝する。また、資料およびアンケート実態調査にご協力戴いた方々に深く感謝する。なお、本研究は西川知恵君、佐藤融紀君の協力を得た。ここに感謝する。

引用文献

- 1) 後藤裕美, 石川孝重, 伊村則子, 吉村敦子: 都心キャンパスに通う大学生の地震防災に対する認識と行動に関する研究—その1 アンケート調査の概要と地震防災に関する知識—;—その2 地震・防災に関する意識と体験に注目した分析—, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (都市計画), pp. 441~442; pp. 443~444, 2004年8月.
- 2) 山口裕子, 久本章江, 石川孝重, 伊村則子: 防災力を高めるための防災教育に関する研究—その7 都心に通う大学生を対象とした地震に対する意識と行動力に関する調査—, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (都市計画), pp. 767~768, 2005年9月.
- 3) 武蔵野大学: 2006学生手帳, pp. 13~14, 2006年度.
- 4) 武蔵野大学学生支援部教務課: 2006年(平成18年度)学生ハンドブック文学部 現代社会学部 人間関係学部, p. 19; pp. 52~53, 2006年.
- 5) 玉川大学: 防災の手引き いざという時のために, 2006年4月1日.
- 6) 法政大学: 学生生活ハンドブック 2005, pp. 22~23; p. 45, 2005年4月1日.
- 7) 東京女子大学: 学生便覧, pp. 42~43; pp. 102~112, 2005年度.
- 8) 津田塾大学: 2006年度津田塾大学学生ハンドブック, pp. 22~23; pp. 31~34; pp. 46~47; p. 107, 2006年4月1日.
- 9) 中央大学学生部: 快適なキャンパスライフを送るために 2006, pp. 6~7, 2006年4月1日.
- 10) 女子美術大学: 女子美手帖 2006, p. 140; pp. 146~149, 2006年.
- 11) 大東文化大学学生部: 2006年度版大東文化大学学生生活手帳, pp. 96~97; p. 174, 平成18年1月31日.
- 12) 東京情報大学教育振興会: Campus Diary 2006, p. 7, 平成18年4月1日.
- 13) 専修大学学生部・学生厚生部: 2005 CAMPUS DIARY, pp. 10~12; p. 108; p. 140, 2005年.
- 14) 明海大学: CAMPUS GUIDE 2006, p. 38, 2006年.
- 15) 工学院大学: 学生便覧 2003, pp. 111~112, 2003年.
- 16) 神戸薬科大学: 2005学生の手引き, p. 98; pp. 113~115, 2005年.
- 17) 神戸大学: 学生生活案内, 防災の心得, 2006年.
- 18) 神戸女学院大学学生生活支援センター: KOBE COLLEGE HANDBOOK—2006, 2006年.
- 19) 学校法人 関西学院: “いざ”という時のために 2006緊急災害ハンドブック, 2006年4月1日.
- 20) 静岡大学: 静岡大学の防災対策, <http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~semsato/zisinbukai.htm>, 2006年1月15日.
- 21) 名古屋大学: 地震防災指針, http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/library/bousai/f_cont.html, 2006年1月16日.